



かしはら  
第173号  
平成30年  
紀元2678年

- ・和魂電才の時代、魂を育み・鎮める「道徳教育と神話」
- ・天皇皇后両陛下より御鏡並び付属品一式御下賜の報告
- ・橿原神宮林間学園の歩み
- ・献華祭のご案内
- ・今後の祭典・行事



御鏡「橿原の杜」並びに鏡の紐（詳細4頁）

## ご挨拶

秋の訪れを感じる季節となりました。  
去る三月十九日畏くも天皇陛下皇后陛下には橿原神宮に青銅製御鏡「橿原の杜」他付属品一式を御下賜あそばさされたことは、実に有難き極みに存じ上げる次第でございました。

当日午後二時に宮内庁庁舎におきまして、河相侍従長より謹んで拝受致し、その後侍従長よりこの度の御下賜のことにつきまして色々とお話を伺いました。

承りますところによりますと天皇陛下におかせられましては、平成二十八年神武天皇三千六百年御式年にあたり皇后陛下と御一緒に神武天皇陵と橿原神宮に御参拝後、還幸あそばされ直ぐに当神宮に対し御鏡御下賜の意をお示しになられたとのことでございました。実に辱き極みに存じ上げる次第であります。

二十一日午前十時より臨時祭と致しまして御鏡奉納奉告祭を齋行申し上げました。その後、一昨年両陛下が御参拝あそばされたと同じ日であります神武天皇祭当日に、祭典に参列された皆様に御覧頂きました。

御奉納された御鏡は現代の名工である山本富士夫氏が制作され、御祭神が御即位され政を行われた畝傍山東南橿原宮に因み畝傍山が描かれ、熊野から吉野に向かわれる途中困難に遭われた神武天皇を安全な道に案内をした八咫鳥と、橿原神宮を象徴する檜の葉が描かれ、鏡の周囲には陛下のお印であります「榮」に因んだ桐の文様が描かれております。鏡の紐は皇后陛下が育てられた「小石丸」の糸が使われております。

また漆塗りの御鏡の箱があり、新谷仁美氏の制作であります。蓋には両陛下のお印である「榮」と「白樺」に因んだ文様が蝶

細で描かれています。

御覧になった皆様の思いや感想は様々でありましようが、両陛下が御祖先である神武天皇にお寄せになる御心は十分に御理解頂けたことと存じます。

私見ではありますが御鏡は、神武東遷から橿原宮で肇国創業され、以来二六七〇有余年万世一系の天皇を中心に日本が揺るぎなく連綿と続いていることが表されているように思えてなりません。

神武天皇は正義の精神を以て政を行い、世界平和の大理想を目指されました。

百五十年前、明治天皇は維新にあたり「諸事神武創業の始めに原基」と新しい時代の理念を表されました。また日露戦争の最中であります明治三十七年九月、当神宮に「太刀巻振」、皇后陛下（昭憲皇太后）からも「白銀八角鏡（巻面）」が御奉納されております。同年、明治天皇には「橿原の宮のおきてにもとづきてわが日本の国をたもたむ」とお詠みになっていらっしゃいます。この御製は、日本の国は神武天皇の建国の精神を基に歩まれる思いを述べられたものと拝察致しております。ここに明治天皇には御祖先神武天皇の御加護を戴かれ、この国を永遠に護るとの固い御決意が拝せられるのであります。

この度の今上陛下・皇后陛下の御祖先神武天皇に対する御尊崇の念も明治天皇のお気持ちと何ら変わりはないものであり、その根本は正義と平和・博愛の精神を以て民を慈しむ、と云う神武天皇の大精神であると存じております。

橿原神宮宮司 久保田昌孝

檀原神宮を崇敬し、畝傍山、天香久山、耳成山の大和三山をお参りさせていただいたこと、もごじます私にとりまして、この度、社報「かしはら」に寄稿をさせていただきましたこと大変光栄に存じます。

### ● 特別の教科「道德」の開始

本年春、平成三〇年四月から、小学校において、「特別の教科・道德」が始まりました。平成三三年四月からは中学校でも開始されます。これまでも、道德の時間は設けられていたが、形骸化していたり、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなど、型にはまったものになりがちでした。このたび、道德が教科になり、年間三五時間単位が確実に確保されることに、検定の教科書もつくられ、無償配布されるようになりました。德育にふさわしい、ふるさと、日本世界の偉人伝や古典、物語などを通じ、他者や自然を尊ぶこと、芸術・文化・スポーツ活動を通じた感動などに十分配慮したバランスのとれた、子供たちに感動を与える教科書となりました。質的にも、教師がその理念を十分理解し、問題解決的学習や体験的学習などの効果的な指導方法を取り入れてもらうこととしています。文部科学省も、さらに、良い指導例を集めて公開しています。

子どもたちが様々な事象を、道德的価値の理解をもとに、物事を多面的・多角的に深く考えて、自己の生き方についての考えや自覚を深めるといった教育を目指しています。内容は、「自分自身に関すること」、「他の人とかかわりに関すること」、「自然や崇高なものとかかわりに関すること」、「集団や社会とかかわりに関すること」の四つの柱で構成され、小学校から中学校までの子供の発達段階を踏まえ、それぞれの時期にふさわしい内容で、挨拶や礼儀、善悪の判断、思いやりの心、基本的な社会道德、責任感、自尊感情、社会への貢献などの指導を行い、同時に、美しい心の伝統を語り継ぐことを重視し、言葉や文学による德育を推進することとなっています。今回、「考え、議論する道德」を掲げ、葛藤や衝突、板挟みといった場面の当事者としての道德的判断力を磨くことに重きがおかれています。

### ● 明治維新一五〇年と和魂電才

今年、明治維新から一五〇年にあたります。文久三年（一八六三年）には神武陵が治定され、明治三年（一八九〇年）四月二日に檀原神宮が創建されましたが、一八六三年といえは、ペリー来航から一〇年経ち、薩英戦争が行われた年です、この五年後が大政奉還です。一八九〇年といえは、その前年の明治二年（一八八九年）の二月十一日に公布された大日本国憲法が十一月三日に施行されました。いずれも、維新の節目と重なっています。日本が西列強と必死に向き合い、洋才は受け入れざるをえない状況にあつて、なお、和魂を守り抜くために先人たちが懸命に努力された様子が目に浮かび、頭が下がります。

映画スターウォーズを作ったジョージ・ルーカスが師と仰ぐ神話学者ジヨセフ・キャンベルは、日本の神道を絶賛しています。特に、あらゆる自然の営みを、矯正することなく、すべてよきものとして受け入れ、昇華美化し、自然の美と自然との協力を常に日本人は大切にしている。そして、日本人は、近代化の過程で、大量の機械的物質を受け入れたにもかかわらず、それに埋没することなく、機械世界を同化し、内面的な人間が住んでいる魂においては、いまだに自然と調和していると絶賛しています。

今、時代は、イギリス、フランス、アメリカから始まった産業革命・市民革命以来、二五〇年ぶりの世界史の大転換期を迎えています。人工知能(AI)、仮想現実・融合現実(VR・MR)、再生医療、ゲノム医療、ロボット工学などのイノベーションが飛躍的発達し、二〇四五年には、人工知能が人間の知能を上回るといわれています。今ある仕事が人工知能にとって代われ、大失業時代がくるとも予想されています。まさに、機械化ならぬ電脳化が急速に進み、洋才ならぬ電才が必要となっています。

こうした中、世間では、電才を身につけ、電才から取り残されないための教育改革の議論が活発に行われています。これらは大事なことですが、私は、あまりにも「有用性」からの議論に偏りすぎているのではないかと危惧を感じています。人間は道具ではありません。取り換えの利く「駒」でもありません。この世に唯一無二の存在です。人間と人工知能の最大の違いは「魂」の有無です。電才教育と同時並行して、今こそ、改めて、和魂を育む教育を充実していかなければなりません。

政治哲学者ハンナ・アーレントは、その著作『人間の条件』のなかで、生命を維持するための「労働」だけでなく、後世に残る作品を作る「仕事」、後世に語り継がれるような「活動」をすることこそ人間である。と語っています。哲学者、バタイユは「ひとはパンのみを必要としているのではない、ひとは奇跡にも渴えている」とか「近代の人間は原始的な人間が至高なものとなししていたことに無知であったり、それを充分に認識していなかったりするので、どうしてもそれを貶しめ、否定する傾向がある。原始的な人間は絶え間なく至高性を氣遣い、その問いを發していた。」と言っていますし、「ニーチェも『失われた至高性の回復が重要』だと言っています。

私は、「生産活動への有用性を超える至高性を追求すること。」つまりは、経済的損得を超えて、正義・徳・善・調和を実現するための新たな歴史づくりの挑戦に加わることこそ、人間の価値だと思います。

### ● 現代人の魂を鎮める神話・神事

最近、日本をはじめ主要先進国において「不安」や「怒り」や「妬み」が余りにも蔓延しています。心の病も急増しています。科学技術とグローバル化の進展によって、未知なるもの・異なるものとの向き合うことがますます増えていきます。本来、未知との遭遇は、「危険」と「機会」との両方をもたらすにもかかわらず、危険だけが強調され、不安が過剰に煽られています。そして、その不安が、怒りやルサンチマン（憎悪、ねたみ、怨恨）などの原因となっています。こうした感情が、集合無意識となつて、至高なることに挑もうとする高潔で志の高い人物を揶揄し、バッシングする社会の風潮を生み出しています。これでは次代を創る英雄は出てきません。

こうした現代人の精神病理を、科学や医療だけでは解決することはできません。私は、袴りや神話や神事・祭祀に、解決・改善の糸口があるのではないかと思っています。

神話や神事は、我々に不易を教えてくれます。五年で出来たものは、五年で消えてしまふかもしれないが、二七〇〇年余り続いていたことは、二七〇〇年後にも続いている可能性があります。日本人は、ありがたいことに、二七〇〇年前のことを、神事や神社を通じて、目のあたりに行うことができます。神話を讀むと、今も昔も、人間の本性が余り変わっていないことがわかります。不易がわかると、安心が生まれます。想定外と板挟みの苦難を乗り越えた先人たちが、歴史的偉業に人生を投じた先人たちに思いを馳せ、神々に真摯に祈りをささげること

とで、憧憬、感謝、自覚、自負が生まれ、それが、精神の安定につながり、和やかに魂が育まれていくのではないのでしょうか？

二〇世紀に入り、世界では、各分野の最高峰の賢者たちが、神話の意義を再評価しています。心理学者ユングは、神話とは集合無意識の元型が表現された一つの形態だと、文化人類学者レヴィストロースは、神話は心のありようを反映したものだと、宗教学者ミルチャ・エリアーデは、現代人が感じる不安は神話や神聖なるものの拒絶してきたことにあると言っています。神話学者ジョセフ・キャンベルは、アメリカでむやみに暴力が多発する理由は、目に見えない部分まで理解することを助けてくれる神話がないこととエトスが欠けていることだと、そして神話は神秘な存在に対する畏敬の念を想起させ、神話を讀むことで自己の内面に向かうことができるとも言っています。日本でも根強い人気がある独のシュタイナー教育のプログラムに各民族の神話を学ぶという単元が盛り込まれています。フランス人の政治学者ルナンは、「国民とは魂であり、精神的原理です。共有物として受け取った記憶の遺産を運用しつづける意志と、そして、人々が過去において行い、今後も行う用意のある犠牲心によって構成された連帯心に求められる。」と述べていますが、まさに、創生の英雄たちの奇跡的で、神的で、聖なる神話や明治維新や檀原神宮の創建などの物語こそが、記憶の遺産となつて日本人をつくってきたのです。

日本においても、神話や神事や祭祀の意義を改めて深く議論し再認識し、いかにこれらを絶やすことなく次代に伝えていくか、今の日本人が、和魂を取り戻し、世界にも広げていくか、日本人自身による真剣な議論と真摯な実践が強く求められていると思います。

### プロフィール

鈴木 寛(東京大学教授、慶應義塾大学教授)

一九八六年東京大学法学部卒業後、通商産業省入省。慶應義塾大学SFC助教授を経て二〇〇二年参議院議員初当選(東京都)。十二年間の国会議員在任中、文部科学副大臣を二期務めるなど、教育・医療、スポーツ・文化、科学技術イノベーション、IT政策を中心に活動。参議院憲法審査会幹事、超党派スポーツ振興議連幹事、東京オリンピック・パラリンピック招致議連事務局長、超党派文化芸術振興議員連盟幹事長や日本ユネスコ委員も歴任。二〇一四年より慶應義塾大学政策・メディア研究科教授、東京大学公共政策大学院教授、日本サッカー協会理事等に就任。二〇一五年二月より文部科学大臣補佐官を務める。

天皇皇后両陛下より御鏡並び付属品一式御下賜の報告

去る平成三十年三月十九日、天皇皇后両陛下におかれましては平成二十八年四月三日が神武天皇御崩御より二千六百年という式年に当たることから、橿原神宮に對し御鏡及び付属品一式を御下賜にられました。当日は宮内庁庁舎において、河相周夫侍従長から久保田昌孝宮司に伝達されました。この度の過分なる思召しにつきまして、崇敬者並びに関係各位にご報告申し上げます。

● 御下賜された御鏡並びに付属品について

● 御鏡「橿原の杜」(表紙写真)

青銅製。丸形。八寸(二十八センチ)。鏡背中央に神武天皇及び橿原神宮にゆかりの「八咫鳥」「畝傍山」「檜の葉」を配し、周囲に天皇陛下のお印である「榮」にちなんだ桐の文様が施されている。制作者は山本富士夫氏(株式会社山本合金製作所代表取締役)。平成二十七年「卓越した技術者(現代の名工)」として厚生労働大臣表彰。

御鏡制作について宗教文化専門誌である『中外日報』が山本氏に取材を行っている。記事によると、山本富士夫氏は平成二十八年四月二十七日の「春の園遊会」で両陛下からお声掛けされる一人に選ばれ、その場で依頼された。御鏡は平成二十八年中に制作を始めたが、一番苦心したのは八咫鳥や畝傍山などの柄のバランス。凶案はあっても、どの柄をどの程度強調し、全体のバランスを取るかは職人の腕に委ねられる。作業としては凶柄にめりはりを付けるには形を彫る深さをより深くする。当然、この段階では左右・凹凸が逆になるので、普通の彫刻のように完成像を確認することはできない。その為、絶えず出来上がり予想しながらへらで形を作る。

山本氏は「ある意味、鏡は神様そのものなので意識すると重圧に潰れてしまう。いつものように精魂込めて作業に当たった。侍従の方々から陛下が喜んでおられると伺い、大変名誉だ」と話したとある。



乾漆螺鈿鏡箱「榮に白樺」並びに鏡箱中敷き

● 乾漆螺鈿鏡箱「榮に白樺」

乾漆製。円形黒漆塗り。意匠として両陛下のお印である「榮」と「白樺」に因む文様が螺鈿で施されている。制作者は奈良市在住の新谷仁美氏。螺鈿の重要無形文化財保持者(人間国宝)である北村昭齋氏に師事する漆芸家である。

● 鏡の紐、並びに鏡箱中敷き

鏡の紐は正倉院宝物の銅鏡にも多く見られる伝統的な角打ちの組紐。中敷きは綾織の裂で真綿を包み縫製。正倉院宝物染織品に見られる「八稜唐花文」という織りの技法で、同じく正倉院宝物に見られる文様の一つである「八稜唐花文」が施されている。皇后陛下が皇居紅葉山御養蚕所で飼育遊ばされている日本の在来種の蚕「石丸」の糸が用いられ、染料として皇居産の日本茜が使用されている。天皇皇后両陛下の思召しにより宮内庁から提供された。調製は京都市の株式会社川島織物セルコン。平成六年から実施された「正倉院宝物染織品復元十カ年計画」にも携わった実績がある。

● 御下賜に至るまでの背景について

御鏡下賜に関連する一連の出来事を記載致します。

● 神武天皇二千六百年大祭

例年四月三日午前十時より橿原神宮では、御祭神神武天皇が御治世七十六年、橿原宮で崩御された日をお偲び申し上げて、神武天皇祭を斎行致します。

平成二十八年四月三日は崩御されてより二千六



神武天皇二千六百年大祭当日の様子

百年の御式年となることから「神武天皇二千六百年大祭」を齋行致しました。

大祭に参列するために全国から訪れた方は三千人余りに及び、祭場は廻廊まで埋め尽くされました。午前十時、天皇陛下からの幣帛を納めた辛櫃を奉じて、宮司以下祭員が参進しました。祓所で修祓を行い、畝傍山東北陵を遙拝したのち内拝殿へ参進。祭典にて、神饌を供し、幣帛が奉られました。

### ● 神武天皇二千六百年式年祭 山陵の儀

神武天皇の崩御から二千六百年の御式年にあたり、天皇皇后両陛下におかせられましては、神武天皇建国の地である橿原市に行幸されました。平成二十八年四月三日午前、モーニング姿の陛下とグレーのロングドレスに身を包まれた皇后陛下は畝傍山東北陵で齋行された神武天皇二千六百年式年祭 山陵の儀に臨まれました。百年ごとに齋行される式年祭は大正五年以来となります。山陵の儀には随従皇族として秋篠宮両殿下が同行されました。

### ● 天皇皇后両陛下御参拝

平成二十八年四月三日午後三時過ぎ、小雨の中、天皇皇后両陛下は橿原神宮に着御。橿原神宮責任役員や総代をはじめとする特別奉迎者約三百名がお迎えする中、宮司が御先導申し上げ、外拝殿から内拝殿に進まれました。天皇陛下には幣殿前で侍従長より玉串をお受けになり御祈念拝礼あそばされました。続いて皇后陛下も同じく幣殿前で女官長より玉串をお受けになり御祈念拝礼あそばされました。



宮司の先導により下御される天皇皇后両陛下

その後、崇敬会館宝物館に向かわれ宮司の案内のもと、明治天皇が刀匠堀井胤吉に作らせて、橿原神宮に奉納された太刀や昭憲皇太后奉納の「白銀八角鏡」また「神武天皇御一代記御絵巻」などの宝物を御視察されました。天皇皇后両陛下は宮司の説明にうなずきながら時折、質問さ

れるなどして興味深く御覧になられました。

宮内庁の発表によりますと、この御参拝の折に天皇皇后両陛下より御鏡御下賜の思し召しがあり、その後準備が進められたとのことです。

平成二十八年は二月の「紀元祭」と三月の「本殿遷座祭 遷座の儀」並びに「奉幣の儀」に御勅使を御差遣賜り、さらには、神武天皇二千六百年大祭には御幣帛料を賜り、当日午後には天皇皇后両陛下の御参拝を賜った年でありました。

### ● 奉納奉告祭について

平成三十年三月二十一日 臨時中祭として「御鏡奉納奉告祭並後之月次祭併春季皇靈祭遙拝」を齋行致しました。御下賜戴いた御鏡を辛櫃に納め、外拝殿正中石畳より参進。献饌後に御鏡を御神前に奉献し祝詞を奏上、御祭神に御鏡御下賜の由を御奉告申し上げました。

### ● 一般公開について

天皇皇后両陛下より御参拝を賜った日に合わせ、平成三十年四月三日、宝物館にて「橿原の杜」の特別展示を行いました。当日齋行された神武天皇祭に参列戴いた崇敬者や一般参拝者を含め当日は六百二十名もの来館者がありました。これは宝物館が開館して以来最大の来館者数になります。また御鏡御下賜、一般公開に関しては全国五紙を始め、多くのメディアにて取り上げられました。このことから世間の関心の高さをうかがい知ることが出来ます。尚、今後の御鏡公開については未定となっております。(平成三十年七月現在)



宝物館でご説明申し上げる宮司



「橿原の杜」特別展示当日の様子

はつめじ

檀原神宮林間学園は今年平成三十年第六十九回目を迎える。毎年開催されているので六十九年間続いてきたと言う事になる。

広島・長崎に原子爆弾が投下され終戦の日を迎えたのが昭和二十年八月十五日。日本中が終戦の痛手を抱え将来の見えない混沌とした毎日を送っていた最中<sup>さなか</sup>にあった。こんな中、終戦からわずか四年の昭和二十四年、第一回目の檀原神宮林間学園がスタートしたのである。

『戦後の混迷の世相にあつてせめて成長していく子供にだけでも幼い頃の楽しい思い出を作つてやりたい』という考えのもとで…。

当時の時代背景を思い起こすとき 何という英断であつたのかと改めて思つてしまう。

この第一回の檀原神宮林間学園に当時小学六年生であつた私が参加し、その後も大学時代には児童のクラス担任を、又音楽教室や図工教室の講師補助を何度か務めた。八十歳になつた現在も図工教室の講師として繋がらせていただいているご縁に感謝と万感の思いを込めて檀原神宮林間学園の歩みを振り返つてみたいと思う。

● 第一回目の檀原神宮林間学園

第一回要項

夏期林間学園が催されます

夏のお休みを利用して静かな涼しいそして清浄な場所で、皆さんのために楽しい林間学園を開くことになりました。将来の日本を建

設する重い責任を負っている児童たちには是非必要な教養は英語の會話であると存じます。極く初歩からわかり易く、しかも面白い本當の實力のつくように、この道の權威ある講師の先生からご指導を受けることになって居ます。その外、趣味の自然科学や、夏休みの宿題や学習の輔導なども行はれますし、童話や遊戯や音楽なども、毎日あつて、皆さんの心をほんとうに美しくし、よろこばせることゝ存じます。

身体の健康については特に注意して、かしはら子供會の布施醫博が健康診断や保健衛生にあたつて下さることになっています。身心共にすこやかで研究心や学習力の強い良い子に育て、しかも一生忘れる事の出来ない なつかしい楽しい思ひ出となるよう計画をすゝめて居ります。

諸先生や御両親様や、御家の皆様様の御聲援によりまして一人でも多く御参加下さいますようお願いいたして居ります。

日程	8月8日(月曜日)～8月13日(土曜日)	
6日間	9時～16時まで	
英會話	女高師教官	藤本 重治 先生
	女高師教官	土井 俊子 先生
畝傍山登山指導	近畿編纂	北島 享一 先生
蟬の話	青年師範學校	瀬川 敏夫 先生
植物の話	檀原國史館	小島 貞三 先生
ホークダンス	畝傍高校教官	大川 初枝 先生
音楽指導	音楽部	先生
學習指導	6年	中學1、2年程度
會費	200円(1人當り)	

※(原文のまま)但し時間表、持参品など一部省略

何より驚く事の一つは、この時代にあつて「英会話をメインに取り入れた学習」を打ち出している事である。これとは対照的に、学習日程の中に健康診断が組み込まれており、検便が行われた。時代を反映しているとは言え驚く事のもう一つに入るのではないだろうか。

さてメインの英会話の学習であるが女子の先生からは「キラキラ星」「ABCの歌」「こげこげボード」等の簡単な歌を英語で教えていただいた。男子の先生はアメリカ留学から帰国されたばかりとかで、日本語の発音が少し耳になじまなかつた記憶がある。主に簡単な単語、ドッグ、ストーン、フラワー、フレンド：等々。それに挨拶の言葉を教わつた。必死で大きな口を開けて真似て声を出していた事が思い出される。午後は楽しい童話を聞いたり、初めて顔を合させた友達とフォークダンスをしたり、幻燈や紙芝居を見せてもらつたりした。畝傍山にも登つた。七十年近くたつた今でも山頂近くにあつた「山もも」の木を思い出す。

### ●林間学園の取り組み

英会話中心の林間学園は八年間続けてきたが、九回目の昭和三十三年から午前中は、理科、社会、図工、音楽の教科別の学習。午後は合同学習とし現在に至っている。(写真九頁)

学習内容や活動については、少子化、塾、おけいこ事、ネット社会への流れ等、子供を取りまく環境の変化を考えながら、より良い方向を探り改善を加えている。(図一、二参照)

### ●林間学園の一日の流れ

一の鳥居をくぐり玉じやりを踏みしめ、県内各地(中には祖父母の家に泊まつて県外からの参加もある)からやつて来た子ども達が会場に向かつて元気よく歩いてくる。会場に近づくと爽やかな歌が木々の間から流れている。

♪呼んでる呼んでる わたしをぼくを

急いで行こうよ玉じやりふんで

サクサク サクサク 林間学園

おはよう おはよう よく来たね♪

受付をすませ会員章(手帳)に出席印をもらう。会員章は中開きで、表には内拝殿の参拝風景(林間学園生)、中側は林間学園の歌の歌詞と楽譜。裏には「こころがけ」と「出席表」が印刷されている。この会員章の色にこだわりがある。青・緑・紺・深緑などのローテーションで年々変わっているが、五十回六十回などの大きな節目には記念として高尚な紫色が使われている。又林間学園に三〜四年連続参加しても同色はない。

全員集合での朝の会は遙拝から始まる。心一つにして拍手を打つ。初日は戸惑っていた子ども達も三日目四日目ともなれば、よく揃つて気持ちが良い。それから各教室へ向かい各々の教室(森や林の中、つまり林間)で学習し、午後は合同学習。(全体を二つに分けて別々の活動をする事もある。)一日の終わりに全員集合し、一日の無事を神様に御礼の遙拝をして帰路につく。林間で初めて出会った者同士が以前から友達であった様に話したり戯れている姿もあり、微笑ましい。

♪鳴いてる鳴いてる 小鳥とともに

今日のおけいこ もうおしまいと

チリリン チリリン 林間学園

さよなら さよなら あしたもね♪

(図1) 参加人数の移り変わり

開催回	開催年	5年間の平均 参加人数	参加学年
1～5回	昭和24年～29年 (昭和25年は開催されず)	246名	小4・小5・小6 中1・中2
6～10回	30年～34年	348名	
11～15回	35年～39年	346名	
16～20回	40年～44年	412名	
21～25回	45年～49年	510名	小4・小5・小6
26～30回	50年～54年	530名	
31～35回	55年～59年	462名	
36～40回	60年～平成元年	303名	
41～45回	2年～6年	247名	小3・小4・小5・小6
46～50回	7年～11年	240名	
51～55回	12年～16年	297名	
56～60回	17年～21年	340名	
61～65回	22年～26年	217名	
66～68回 3年間	27年～29年 3年間	203名	

参加人数 最小 昭和24年(第1回)45名  
最大 昭和50年(第26回)712名

(図2) 学習や活動のあらまし(時代と共に変化がある)

教室名	午前 教科別 学習	午後 合同学習
理科教室 ↓ 科学クラブ ↓ 科学教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蝶、蝉、蜂、蛾の生態や一生</li> <li>・紀元前の生き物について</li> <li>・水の色の変化の実験</li> <li>・葉脈のラミネート加工</li> <li>・地球の歴史</li> <li>・進化の話、人間と動物の違い</li> <li>・食塩の重さの実験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォークダンス</li> <li>・オリンピックの話</li> <li>・南極捕鯨の話</li> <li>・童話、紙芝居</li> <li>・腹話術、手品</li> <li>・メリヤス工場見学</li> <li>・農業試験場見学</li> <li>・自衛隊飛行訓練見学</li> <li>・スポーツゲーム</li> <li>・水泳指導</li> <li>・交通安全の話</li> <li>・ライトプレーン製作</li> <li>・歴史館見学</li> <li>・畝傍登山</li> <li>・星の話</li> <li>・木琴演奏会</li> <li>・プラモデル製作</li> <li>・保健衛生の話</li> <li>・台風の話</li> <li>・映画鑑賞</li> <li>・森のコンサート</li> <li>・球技会</li> <li>・オリエンテーリング</li> <li>・雅楽</li> <li>・植物観察</li> <li>・檀原考古学博物館見学</li> </ul>
社会教室 ↓ 郷土クラブ ↓ 歴史教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古墳について</li> <li>・火起こしの歴史</li> <li>・江戸時代の家、町</li> <li>・電車の歴史、切符の話</li> <li>・日本の文字について</li> <li>・勾玉作り</li> <li>・檀原考古学博物館見学</li> </ul>	
図工教室 ↓ 図画クラブ ↓ 図工教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指人形作り</li> <li>・木切れ工作、粘土工作</li> <li>・神宮境内の風景写生</li> <li>・精密描写</li> <li>・仮面作り</li> <li>・版画いろいろ</li> <li>・うちわの絵付</li> </ul>	
音楽教室 ↓ 音楽クラブ ↓ 音楽教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林間学園のうた</li> <li>・合奏(レットイットゴーなど)</li> <li>・合唱(少年時代など)</li> <li>※曲は毎年変わっている</li> </ul>	

最終日、図工教室の作品、歴史教室の勾玉、科学教室の葉脈のしおりなどが展示される。音楽教室は最終日に発表演奏をする。(どちらも保護者の参観可)



## ● おわりに

最近いろいろな行事でのマナーの悪さが原因で楽しいはずのイベントや伝統を守って催されてきた祭りが中止されたり見直されて行く傾向にある。又「いじめ」の問題も後を断たずくり返し、くり返し起こっている。

今年度から「道徳」が教科化され従来の学校全体で行う道徳教育と教科としての「道徳科」とでは道徳性の育て方が違うと言われている。

いじめの問題等への対応が発端で軽視されがちな道徳の時間の改善などが教科化の理由の様であるが、どの様に展開されて行くのだろうか。教師が一方的に教え込むのではなく、児童生徒が「考えつく限りの可能なあらゆる立場に立つ事。あらゆる場面を想定して、ものを考える」。つまり自己を見つめ、多面的・多角的にものを考え、自分の生き方に生かせる力をつける事をねらいとしていると記されている。

約七万六千本の樹木が植えられ、甲子園球場の十三倍はあるという広大な神宮の森の中。神宮職員の方々の温かい目・耳・手・足そして心が、すみずみに行き届いている会場。この中で、学校を離れ、今まで接した事のない仲間としゃべり合い、笑い合い、時には小さなぶつかり合いもしながら過ごした五日間。ふだん出来ない様々な学習に目を輝かせて取り組んだ五日間。元氣いっぱい若い大学生の学級担任、中には白いおひげの講師先生、参拝に來られて見学される方…。いろいろな人とのふれ合いのあった林間学園の五日間。

こんな「特別な空気」の中で過ごした五日間の貴重な体験から得た事は子ども達の身体の中に無意識のうちに「見えない力」となって蓄積されたに違いない。

この力が道徳科が目指す多角的、多面的に物事を考え、自分の生き方に



昭和33年第9回林間学校合同学習の様子（筆者写真中央）

生かせる力になる事と信じている。

檀原神宮林間学園がこれから先も時代の流れに添いつつ八十回、百回と続いて行くことを願ってやまない。

## プロフィール

三喜田 百合子  
みきた ゆりこ

●昭和十二年（一九三七）大阪府に生まれる。疎開のため奈良県に転居。

●奈良学芸大学（現・奈良教育大学）卒業後小学校教諭として県内六校に定年まで勤務。

●退職後は奈良県身体障害者福祉センター文化教室講師として現在に至る。

献華祭

橿原神宮では本年から、十月三日の秋季大祭後、午後一時より「献華祭」を執り行う運びとなりました。祭典では、今年創流二二〇〇年となる、いけばな嵯峨御流の境將甫氏さかいらふによる献花が行われます。境氏には橿原神宮「澄心会」ちやうしんかい（茶道・華道・書道の稽古教室名）にて職員へ指導を頂くほか、重要文化財 文華殿の特別公開時には大作の挿花や、通年に渡る橿原神宮社務所大玄関での作品展示など、日頃から橿原神宮に対し御尽力を頂いております。

内拝殿では、定められた型の美しさを見る「生花」の献花を頂き、併せて北側の廻廊ではいけばな嵯峨御流境社中の方々による作品展を開催致します。なお、橿原神宮では今後毎年春と秋に献華祭を斎行致します。（春の献花祭は五月三日にフラワーアーティスト村松文彦氏により斎行されました。）

「献華祭」

〔日時〕十月三日（水）午後一時（秋季大祭直会終了後）

※どなた様も御参列いただけます。

〈奉仕者〉境將甫氏（華道嵯峨御流正教授）

【同時開催】いけばな嵯峨御流献華展

前期／十月三日（水）～五日（金）

後期／十月六日（土）～八日（月・祝）

午前九時から午後四時まで 外拝殿北側の廻廊にて



境 將甫氏



社務所大玄関の「生花」

今後の祭典・行事

十月 三日 秋季大祭／献華祭

十七日 神嘗奉祝祭／神嘗祭遙拝

中旬 抜穂祭

二十五日 軍艦瑞鶴慰霊祭

十一月 三日 明治祭／石州流献茶式

二十三日 新嘗祭

二十九日 大絵馬掛け替え

三十日 大絵馬奉納奉告清祓

十二月 二十三日 天長祭／神御衣御料奉納奉告祭

二十八日 煤払神事

三十一日 神符清祓／歳末大祓／除夜祭

一月 一日 初太鼓／歳旦祭

新春初神楽祈禱（期間中）

二日 長山稻荷社歳旦祭

三日 元始祭

五日 書き初め大会〈奈良地区大会〉

六日 書き初め大会〈大阪地区大会〉

七日 昭和天皇祭遙拝

中旬 古神札焚上げ奉告祭

二十日 神武講社新穀奉献感謝祭

二月 二日 長山稻荷社神符遷霊祭

十一日 紀元祭

十七日 祈年祭

初午の日 長山稻荷社初午祭

三月 春分の日 春季皇霊祭遙拝

毎月一日・十一日・二十一日は月次祭を斎行。  
※御参列を御希望の方はお問い合わせ下さい。